

---

=== 日程第3 一般質問 ===

○議長（村松 積） 日程第3、一般質問に入ります。

今回は6番、宮嶋清伸君、4番、宮嶋怡正君、3番、金田憲治君、1番、小池昌人君、2番、串原寛治君、以上5名から通告されております。

---

◇ 宮 嶋 清 伸 ◇

○議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君、質問を許します。登壇願います。

宮嶋清伸君。

○6番（宮嶋 清伸） 6番、宮嶋清伸です。

今回私は、今まで下條村のためにご尽力いただいていた高齢者に対して、健康で暮らしていくための施策と中央リニア新幹線についての提案をして、村長のお考えをお聞きするものです。

まず、高齢者の介護予防体操の充実施策についてお聞きします。

高齢化社会を迎え、健康で元気なお年寄りを増やし、老人医療費の増加を防ぐために、下條村では、他市町村に先駆け、脳刺激訓練や生きがいデイサービス、水中運動などの介護予防事業に積極的に取り組んでいますが、参加者の固定化が現状です。そこで労連や健康づくり協力員の方にもご協力をいただき、健康大会の参加者に水中運動を体験する機会を設け、水中運動を村民に認知してもらったり、ケーブルテレビでのPRを行い、参加を増やす必要があると思いますが、村長のお考えをお聞きしたいと思います。

続いてメタボ改善対策として、村としても取り組んでいますが、現在の生活環境は便利さを追求し、摂取カロリーが消費カロリーを上回り、年々新陳代謝は低下。そこへストレスが重なり、メタボ脱却に苦しんでいるのは私だけではないと思います。

自己責任、自己管理が一番だとは思いますが、メタボ体操や食事療法などの事業を積極的に行うべきだと思いますが、村長のお考えをお聞きしたいと思います。

また、保健師が村内を巡回する機会を増やし、診療所のドクターとコミュニケーションをとることも予防事業の一環だと思いますが、村長のお考えをお聞きします。

続きましてCルートの方で決まり、設置駅が議論されていますが、私は行くことより来てもらえる魅力ある駅づくりと地域の取り組みが必要だと考えております。そこで広域

でも検討の飯田駅と隣接してリニアの駅の設置について、村長のお考えをお聞きしたいと思います。

また、リニア開通に向け、地域で取り組むべき事業、課題について、村長のお考えをお聞きしたいと思います。

また、南信州広域連合として、飯田駅のアクセス道路のインフラ整備として、三遠南信自動車道山本インターから羽場大杉線へのアクセスとして通称南バイパスの開通。また諏訪・伊那から中央道を利用し飯田駅まで乗り付けるための上飯田地籍のスマートインターの設置などについて、村長のお考えをお聞きしたいと思います。

また、リニアが通ることにより、市町村にある観光課を1つにして、南信州全体を行政区として観光行政を考えるなどの施策について、村長のお考えをお聞きしたいと思います。

以上で私の質問を終わります。

○議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

伊藤村長。

○村長（伊藤 喜平） 宮嶋議員の質問にお答えいたします。

まず、最初に予防体操の充実施策についてということで、高齢者の介護予防事業の充実、それからメタボ改善予防についてという2つの大きな概念で質問があったと思います。

今、議員申されたように、最近の医療技術の進歩等に伴い、平均寿命が相当延びておる昨今において、単なる寿命の長さではなく、健康を維持しながら長生きをするいわゆる「健康寿命」という考え方が今主流になってまいっております。

そのために村民の健康増進を村づくりの基本と考え、下條村でも生活習慣予防や健康意識の改善に各種の予防事業を早くから取り組んでいることは、議員も申されたとおりでございます。

また、多くの村民の皆さんが手軽に気軽に参加できるよう、「いきいきらんど下條」を中心に、各地域の出前講座等も積極的に取り組んでおるところでございます。

この機会でございますので、再確認の意味で事業の例を申し上げますと、平成3年から始まった脳刺激訓練、これは19年目になるところでございますけれども、なかなか盛況に行っております。

それから生きがいデイサービスも毎週2回行っています。

地域の出前講座でございます。これは触れ合いサロンということでやっております。

包括支援センター主催の各種講座として、介護予防の「こけん塾」倒れない塾でございますけれども、栄養教室の「おまめに講座」等いろいろやっておるところでございます。

また、水中運動教室にも触れられましたけれども、水中運動教室についてはリハビリプールにて、毎週月、水、土で7教室を実施しております。浮力や水圧を利用した教室であり、無理なく自分にあった運動ができるのが特徴であろうと思います。

下條村の指導内容にも触れられましたけれども、40歳から74歳までの下條村国保加入者の特定健診等で、検査値が悪かった方には特定保健指導を実施し、運動教室や栄養教室への参加を勧めているところでございます。

また、健診結果報告会において、水中運動を勧めるなど、継続的な運動の必要性についてアドバイスをを行い、水中運動教室の勧誘も進めているところでございます。

また、さらに、1月実施予定の保健大会では、リハビリプールを利用した水中運動の講義やデモを行い、多くの住民の方に水中運動について理解を深めてもらう計画でございます。

高齢者事業については、特に男性の参加が少なくありますが、各地域で実施されているご指摘のあったように老人クラブ等で参加呼びかけを行っているところでございまして、今年度は楽寿会と長生会を中心に積極的な参加を勧誘したところでございます。

老人クラブ等地域からの声を上げてもらい、さまざまな会合の場所で健康講座を実施していきたいと思っております。

メタボ予防への取り組みでございますけれども、20年度ではストップザ肥満教室、これは対象者31名の中で10人の参加をいただいてやったそうでございます。

21年度では、メタ防教室、対象者は35人中やはり10人の参加で進めてまいりました。

22年度では、スッキリ健康プログラムを対象者21人で行っておるところでございます。

特に今年度の場合は、運動教室の開催はもちろんです、二次健診に合わせて保健師や管理栄養士による相談事業も実施する計画でございます。

今、保健師とそれから診療所の医師との連携も考えた方がいいということでございます

けれども、もっともなことでございますので、これも加えてやっていくつもりでございます。

一般的には、特に議員もメタボでも相当ご苦勞をなされておるとことは聞いておるわけでございますし、見ておるわけございまして、知識はそれなりに皆さんが持っておるんですけれども、その知識をいかに行動に移すかということが、これはいろいろな立場もあって、私も常にドクターに注意されておるところでございますけれども、なかなかできないのが現状でございます。

しかしながら、基本はやはり本人のやる気、勇気、そして根気等が必要であるわけございまして、そうした基本にかかわる分野もいろいろな機会を通じて啓蒙していくつもりでございます。

特に議員はそうした立場でまたひとつ、いろいろご指導いただいたり経験談等も発表していただきたいと思います。

それからリニア中央新幹線についてお話しがありました。

リニア中央新幹線の整備等を検討する国の交通政策審議会中央新幹線小委員会では、この9日の日に12月15日に正式発表するということでございますけれども、9日の日に既に中間発表をいたしました。これは13回の会合の結果、集約したものでございまして、今ご指摘のようにC案にすることに99.9%決定したということでございまして、私どもにとってはうれしいことでございます。

ここで大きな事業でございますので、もう一度Aルート、Bルート、Cルート、この関係について説明申し上げますと、Aルートにつきましては木曽回りでございますけれども、これは早い時期からどうもあまり思わしくないということで、Aルートは消えてしまったわけでございます。

あと残ったのがBルート、Cルートでございまして、これは長野県内をどのくらいの距離を走るかということ。長野県全体の効果ということになるとBルートということでございますけれども、リニア中央新幹線の国の機関路線としては、長野県を迂回するというような方向、これには非常に疑問を呈しております。これ用地買収から始まって、工事費等もいろいろあるわけございまして、最終的には南アルプスをぶち抜くというC案に決まったわけでございますが、それ前に資料的にも非常になるほどなということがわかるわけ

でございます。例えばBルートにした場合には品川・名古屋間が346kmになります。ところがCルートにすると286kmということで、ここで60km短縮するということでございます。当然所要時間も47分対40分ということで、一回に7分も違ってしまうということ。

工事費においては、Bが5兆7,400億円、片方が5兆1,000億円ということで、この関係でも6,400億円が安くできるということ。

それから輸送需要量でございますけれども、153億人キロ。これは1人の人が例えば286km乗ったとすると、286人キロということになるわけでございます。このトータルでやりますと輸送需要量はBルートでは153億人キロ。片方は167億人キロということで、13億人キロがCルートの方が多いということ。需要が多いということ。

それからもっとも大切なランニングコスト、維持管理については1年間に1,810億円Bルートが。これに対してCルートが1,620億円ということで、190億円差が出るということ。

それから更新費、これは25年から50年の間に部分的にだんだんだんだん更新していかないといかないわけでございます。これがこの間、25年から50年の間にBルートでは3兆4,200億円かかるということでございますけれども、Cルートは2兆9,100億円ということで、5,100億円も安く済むということでございまして、すべてにおいてCルートが優れているというのが、これが公式な場での発表でございます。

中間発表のとりまとめについての案でございますけれども、問題点というか要点は、超伝導リニア方式による中央新幹線整備は、我が国にとってはまず必要であるということ。それからルートは、南アルプス貫通のCルートでいくということ。それから建設主体と営業主体というのは、JR東海がやるということでございます。

主な附帯意見の要旨としましては、地域活性化に寄与するために、建設、営業主体と地元自治体との協力体制の構築を築きなさいと。

駅設置については建設、事業主体と地元が適切なる分担をするための十分な協議をなささいということ。

駅の発着や交通アクセスについては、在来鉄道だけでなく、高速道路への連結性も重視すべきであるということ。

それから環境への十分な配慮。

それから早期開発への努力しなさいということでございまして、15年も17年もかかっておっては駄目ですよ。もう少しできるだけ早くやりましょうということでございます。

それから建設費の削減にもなお一層の研究をしなさいということと、建設主体の独立行政法人鉄道・運輸機構の技術協力ということで、これ鉄道・運輸機構というのはすごく技術、土木技術を含めいろんな技術を持っておるそうでございますけれども、これにもしっかりと応援してやれということで、この提言のまとめに入っておるわけでございます。

下條村についてはどういう対応をするかということでございますけれども、これはもう最大のチャンスでございます。下條村はもちろんのことでございますけれども、広域という立場で今積極的にやっておるところでございます。

特に今、日本の賃金というのが高くなっておるわけでございまして、低賃金雇用の中国、インドなどの追い上げは激しく、このままでは日本の工業の空洞化が非常に心配するところでございます。そのために下條村に誘致の必要性ということになると、できるだけ研究所等の施設を今選択しておるところでございます。

それからまた当然豊かな自然、そういったものを生かした施設が必要であらうかと思えます。

南信州広域連合で取り組むべき事業については、リニアの将来ビジョンを策定するために今年5月にリニア将来構想検討会議を設置し、各界の有識者が参加する有識者会議と地域住民が参加する検討会議、ワーキンググループの三部会構成で今日まで徹底して検討してまいりました。

その内容でございますけれども、対外的に目指す地域像としては、地域外への情報を発信し、グローバル化による小さな世界都市を目指すべきであると。小さなコンパクトな世界都市を目指そうじゃないかということ。それから飯田下伊那地域としては、地域ブランドを今のうちからしっかり確立して、特色のある売り出しをしていこうじゃないかということ。

対内的には、目指す地域像として、今後も住民が自ら活躍する地域、多様な主体が活躍する地域、そして「守るべきは守って未来に伝え、備えるべきものは備えていく」という

地域づくりを目指すもの。

これらの地域像を実現するために、「情報発信」と「リニア飯田駅へのアクセスの向上」を一番の取り組みとおっしゃるところでございます。

リニア駅飯田駅併設ということで、一本で進めておるわけでございますけれども、これもＪＲ東海が思ったほど業績が伸びていないということで、相当シビアな答えが出そうでございます、仮にまだ北へ行くようなことがあればこれは困った問題でございますけれども、そうでないように今水面下、そしてこれからＣルートと決まったわけでございますので、これからより積極的にその方向で進めていくということでございます。

それと同時に車両基地、車両整備基地、これがもしかしたらうまくいかしらんということで、長大トンネルを出て、また恵那に向けてのまた長大トンネルがあるわけでございますけれども、長大トンネルをくぐって飯田盆地を走りまたこういくということになると、車両基地という問題、これはもう非常に広大な土地がいるわけでございますけれども、これが成功すれば雇用が相当な人数になるということ。私どももそれも含めて、今ＰＲというか上へ持ち上げておるわけでございます。

それともう１つは、今もう本当に国の状況の中で公共事業なんていうのは、このままではほとんど削られるばかりの連続であろうかと思っておりますけれども、私はこの中間報告で出たできるだけ早く開通させるように努力なさйтеということございまして、ＪＲ東海もいつまでもかかってやっておっては営業成績が上がらないわけでございますので、私の主張としては早く環境アセスをしておいて、全線を同時着工にする。同時着工をしたって５兆１，０００億円ということでございまして、同時着工しなければみんな大手が持って行ってしまうわけでございますけれども、同時着工ということになると幹線は大手がやり、それから取り付け道路等についてはローカルの業者がやるということで、５兆１，０００億円、９４０兆円も借金しておる中で５兆１，０００億円くらいどうせなら国が借金の債務保証をして、そしてＪＲ東海が早くやって、そして早くこの技術を全世界に売り出して、そうしたら輸送でも収益を上げ、それから技術革新のものを全世界に売り出すということになれば、その方の効果も多いと思います。

さて、９０４兆円も借金のあるのが、債務保証できるような立場であるかどうか、これはまた別の問題でございますけれども、やはりＪＲ東海といえどもこれは営業成績をいち

早く上げて、そして経済効果をいち早く出すということは、これは経営者の常でございますので、私どもそんな面でもまたひとつ大いにとにかく早くやってくれと。1年でも2年でも3年でも早くやってくれということも積極的にお願いすると同時に、地元としても協力できるもの。例えば捨てる問題、土捨て場の問題、それから取付け道路、アクセスの問題等もいろいろあるわけでございますし、この中で鉄道だけにアクセス道路は頼るなということでございます、これはやはり高速道路と今のスマートインターの話もありました。

それから松川の早く橋梁を作っておくと、これがまたひとつ飯田インターとの重要なアクセスになるわけでございますので、そんな総合的な絵も描いておるところでございますけれども、まだ発表の段階でないわけでございますので、近々にまた発表できる段階になったときには、いち早くお知らせし、また検討していただければ幸いと思っております。

観光については、もういくつもいくつもありません、とにかくこの時を逃すなんていうことはあり得ないわけでございますので、今既に南信州観光開発公社というのがあるわけございまして、今度も新井社長が会長に上がり、そしてまた新たに社長が入って体制もだんだん整えておるところでございますし、今まで赤字赤字赤字で累積赤字が非常にありましたけれども、今度グリーンツーリズム等を積極的にやって、あと800万円か900万円の累積赤字があるだけに急激に回復してきたということでございますので、それらを中心にまたさらに充実、拡大してやっていくようになっておるわけでございますので、ご理解いただきたいと思います。

以上で終わります。

○議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君、再質問ありましたら。

6番、宮嶋清伸君。

○6番（宮嶋 清伸） 今の答弁で私も少しは身の引き締まる思いをして、メタボに対応していきたいなと思っております。

そのほかでリニアの関係で同時着工ということで、そうすることによって今建設業界も非常に本当公共事業がない。なかなか一般の企業でもないということで、同時着工していただいてはたまたま私も中国に何度か行く機会あったんですけど、向こうの新幹線作るのには本当ばんばんばんと同時着工して、それをもうつなげちゃうというようなやり方で、それこそ1年ぐらいで開通しちゃうというようなこともやっています。



ですからぜひ国というか、お金を出して早く同時着工してやっていただきたいなと思っております。

そのほかで飯田駅、聞くところによると飯田駅にすると土地、コストも高くなっちゃうから別のところがというようなお話もあるそうですけれども、広域とか飯田市が中心になるのかわからないですけど、土地の買収というか、ここはいいですよというような感じで話をするというのはすごく難航しそうな気がするんですけど、そこら辺についても広域連合の方でもうここいいよというような形で、ＪＲ東海の方に話を持っていけるような対策をしているのかどうかということをひとつお聞きしたいなと。

それとまたリニア通ることによって、また三遠南信も開通して観光客も非常に多く入ってきて、聞くところによると道の駅やライン下りなんかもお客さんが増えたというようなお話は聞くんですけども、そのことによってよく長野市もそうですけれど、ライフライン良くなると日帰り客ばっかになっていっちゃうと。そうするとどうしても宿泊客が減っちゃうというのが常のようです。

ただ、下條村には刈谷市の保養所であるサンモリーユさんあるんですが、あそこはもう８０％ぐらいの稼働率というか宿泊客がおって、なかなか予約しても泊まらないという方が非常に多いということなんで、できればそのそういうせっかくアクセスも良くなってくる中で、今後リニアなんか通ってきたときに下條に泊まりたいよといったときに、刈谷市ばかりに保養所ばかり行って駄目ですよという来れない人を増やすんじゃなくて、そういう人たちを村内の宿泊施設に泊まってもらえるような仕組み作りが必要だと思えますけれども、その２点についてお聞きしたいと思います。

○議長（村松 積） 伊藤村長。

○村長（伊藤 喜平） 駅設置はやはり土地が一番大事なものでございます。それでいつでも用意できますよという形になりつつ今あるということでございますけれども、１つは先ほど申しましたように、小委員会の中で駅設置については事業者と地元とよく相談しなさいと。納得いくまで相談しなさいと。これは当然のことなんですけれども。

そこでＢ案が駄目になってＣ案になったということになると、できるだけ北へという配慮ももしかしたら出ることは確かであろうかと思えます。

私どもは、この地域としての中核はやはり飯田市であり、それからたたずまいも小京都

というような感じで、なかなか普通の都市にないこと。

それから小さな世界都市を目指すということになれば、あれを活性化して、本当の意味でこの風情も適当に残しながら、今シャッターが多くなっておりますけれども、風情を適当に残しながらあそこに駅設置ということが理想であろうかということで、地元のいくつもいくつも線を引いております。

ただ、うれしいことは、横幅が40mから50mで済むということで、これがなかなかありがたいことでございますし、それをもう無断で線を引いたなんていうことになるとこれは大変なことでございますので、それは慎重にやっております。

それから宿泊客もストロー現象もあるけれども、私どもは前向きに考えており、今船下りの問題もありました。あれアンケートをとってみると、これは国内的にも天竜船下り、上も下も含めてでございますけれども、これが相当価値があるそうでございます。それらを中心にまた昼神温泉、それから当然サンモリユを中心に村内の宿泊施設、これもフルになるようにしなければいけないんですけれども、今稼働率が約80%と言いましたけれども、旅館の稼働率の80%というのはパーセントにすると120%くらい素晴らしいことでございます。

そういう中で、今こぼれたのをどうするかということでございますけれども、1つはちょっと値段的にコスト的に安くていいとこと、ちょっと高いとことということになると、今なかなか旅をする人は料金にシビアでございます。

そこで何とか上でもまけてもらい、それから下でも仮に行政がやるべきか、観光協会がやるべきか、それがもしうまく合致するということになればいいわけでございますので、そんなことも観光協会を通じて、そしてまた南信州広域連合を通じて取り組むべき課題としてこれから取り組んでまいります。

結果はどうかは不明でございますけれども、その姿勢で進むように考えておるわけでございますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君。

○6番（宮嶋 清伸） 予防体操の関係でちょっと福祉課長にお聞きしたいんですけど、高齢者がプールに入るといってどうしても水着の脱着が非常に困難。男性はいいんですけど、女性が着たり脱いだりするというのはすごく大変。また、難しいところも出てくると思う

んですけど、そういうような水着、簡単に脱着できるような水着とかそういうのを研究されているかどうか。

そういうのを普及していかないと、なかなか女性に水着全部を着ろといってもなかなかえらいところあるんですけども、そこら辺について福祉課の方でなんか対応しているかどうかお聞きしたいと思います。

○議長（村松 積） 宮島福祉課長。

○福祉課長（宮島 栄一） お答えをいたしたいと思いますが、プールの水着に関しましては、一般的には若い皆さんは、そのファスナーではなくてストレートのワンピースのものが多くいようではありますが、今うちの方でプール教室やられておる皆さん、年代的には平均すると歩行、それからひざ、腰あたりでいきますと年齢でいきますとだいたい平均70歳くらいということになっておりますが、その皆さんが今着られている水着というのは今議員さんおっしゃられたとおり、そのファスナーつきのようであります。どうも若い皆さんが着るようなものはちょっと着れないということで、前開きのワンピースの水着ということになっているようであります。

大半がそういうのを今実際に着ているということでもありますので、特に水着についてはこちらの方でどんなことということはちょっと考えたことはございません。